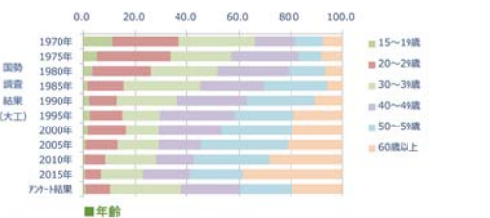


年齢構成 - 若手・中堅の割合増加。高齢者は減少。



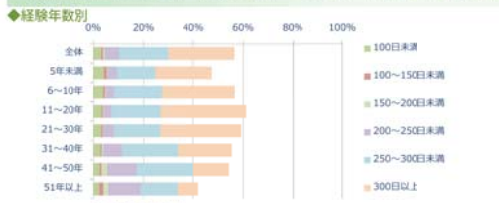
- 平成29年度アンケート調査に回答した大工の平均年齢は44.7歳。
- 60歳以上の高齢大工は19.3%。30歳未満の若年大工は14.1%。
- 国勢調査による大工の年齢層と比較すると、30歳以上50歳未満の割合が高く、60歳以上の割合は低い。現場実務から高齢大工が引退していることが推測される。

雇用形態 - 10年以下の60%以上が工務店社員。



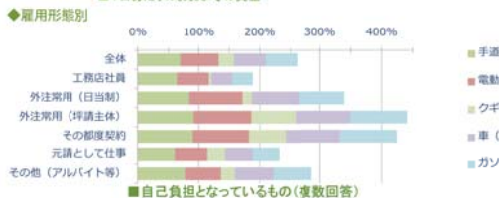
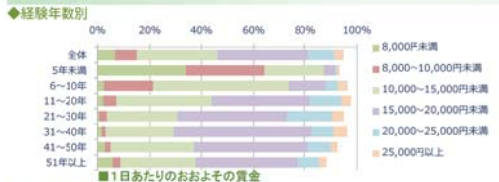
- 経験年数「5年未満」では72.5%が「工務店社員」の大工。
- 「工務店社員」の割合は経験年数が高くなるにつれて減少し、「元請として仕事」の割合が増加。
- 経験年数「51年以上」では66.8%が「元請として仕事」。

年間就業日数 ※- 経験年11~30年、外注常用(坪請主体)で平均年間就業日数が最多。



- 大工全体の平均年間就業日数は265.9日。
- 経験年数「11~20年」、「21~30年」で平均年間就業日数が最も高く274.2日。
- 経験年数「51年以上」で平均年間就業日数が最も低く234.2日。

1日あたりの賃金・自己負担するもの(平成29年度回答のみ) ※-1日あたり平均賃金15,240円。



●大工全体の平均1日あたりの賃金は15,240円。

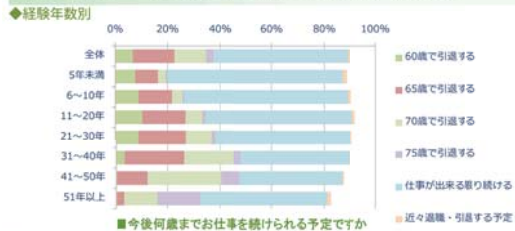
●「平均賃金(経験年数別)」は、「21~30年」が最も高く17,049円。「5年未満」が最も低く10,169円。

●「平均賃金(雇用形態別)」は、「外注常用(坪請主体)」が最も高く17,718円。次いで「元請として仕事」が17,090円。「その他(アルバイト等)」が最も低く12,045円。

●「自己負担となっているもの」の割合の合計値は、「外注常用(坪請主体)」が44.1%で最も高い。その他にも社会保険料負担等があるため、独立した大工の実質の賃金や社会保険が十分であるとはいえない。

※平成29年度アンケート回答のみ(回答者数2,147人)

引退時期- 「仕事ができる限り続ける」約50%。



- 大工全体で「仕事ができる限り続ける」が51.7%。次いで「65歳で引退する」が15.8%。
- 経験年数「41~50年」では「仕事ができる限り続ける」の割合が39.2%と他の階級と比較して最も低い。

就業規則・有給休暇 ※-規則、有給無しが半数以上。



- 大工全体で「就業規則」が有るのは26.9%。「工務店社員」が42.2%で最も割合が高い。
- 大工全体で「有給休暇」が有るのは12.5%。「工務店社員」が22.4%で最も割合が高い。

※平成25年度アンケートから追加の設問(回答者数20,343人)

社会保険の加入状況-年金保険87.0%、雇用保険18.0%、労災保険62.6%、健康保険76.2%。



- 大工全体の年金保険加入の割合は87.0%。
- 「工務店社員」は厚生年金52.1%、国民年金37.6%の割合で加入。
- 「工務店社員」以外は国民年金が多数を占める。
- 大工全体の雇用保険加入の割合は18.0%。
- 大工全体の労災保険(一人親方労災を含む)加入の割合は62.6%。
- 「工務店社員」の雇用保険加入の割合は36.1%。
- 大工全体の健康保険加入の割合は76.2%。
- 大工全体で、国民健康保険は29.0%、組合健康保険(建設国保)は41.4%。
- 「工務店社員」「その他(アルバイト)」以外では組合健康保険(建設国保)が多い。

資格の取得状況 - 足場、木建、玉掛の資格取得40%以上。経験年数が長く、元請の大工は資格数が多い。



- 経験年数5年以上は、「足場の組立て等作業主任者」、「木造建築物組立て作業主任者」、「玉掛け技能講習修了者」の労安衛法に関する資格の割合が高い。
- 経験年数を経るほど、所有資格は多い。経験年数「51年以上」の割合の合計値は396.8%。
- 資格を取得している割合の合計値は、「元請として仕事」が最も高く、次いで「その都度契約」となっている。
- 全ての雇用形態で「足場の組立て等作業主任者」、「木造建築物組立て作業主任者」、「玉掛け技能講習修了者」の労安衛法に関する資格が高い。

大工の技能レベル- 墨付け、和室造作技能は約70%。経験年数11年で技能レベルが一定の水準に達する



- 墨付けができますか
- 大工全体の73.0%が墨付けができる。
- 経験年数10年を境に墨付け技能の割合が一定の水準となる。
- 新築の手刻み加工の仕事年1棟以上行っていますか
- 大工全体の26.2%が手刻み加工の仕事年1棟以上行っている。
- 和室造作ができますか
- 大工全体の68.4%が和室造作ができる。
- 墨付けと同様、経験年数11年で技能レベルが一定の水準となる。
- 2×4工法住宅の施工ができますか
- 大工全体の27.1%が2×4工法住宅の施工ができる。
- 経験年数「41~50年」で34.2%と割合が最も高い。

仕事内容・収入等への満足度- 入職5年未満、工務店社員で満足度が高い。



- 大工全体では、仕事内容の満足度は59.8%。収入等の満足度は35.0%。
- 満足度は経験年数「5年未満」で最も高く、経験年数「20年以上」では低い。
- 仕事内容および収入等への満足度は、「工務店社員」が最も高く、「その都度契約」が最も低い。

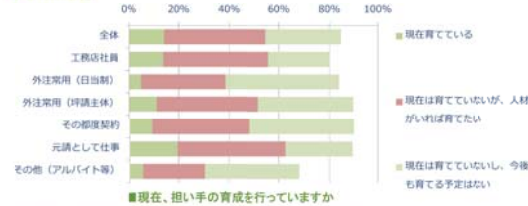
担い手育成状況-現在育てている大工は14.2%。人材がいれば育てたい40.5%。

◆経験年数別



- 「現在育てている」割合は、経験年数「51年以上」で19.8%で最も高い。
- 「人材がいれば育てたい」と回答した割合は、経験年数「11~20年」で48.6%で最も高い。

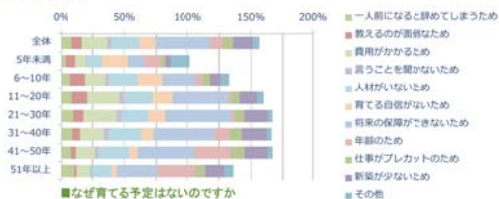
◆雇用形態別



- 「現在育てている」と回答した割合は、「元請として仕事」が19.6%で最も高い。次いで「工務店社員」が13.8%。
- 「人材がいれば育てたい」と回答した割合は、「元請として仕事」が43.2%で最も高く、次いで「工務店社員」が41.9%。

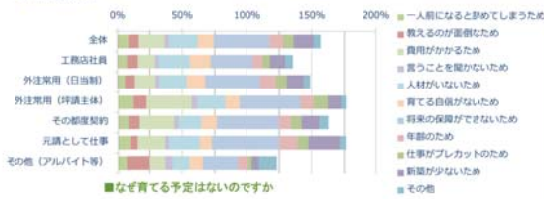
担い手を育てる予定はない理由-将来の保障ができないため43.1%。高齢大工では、年齢のため育てられない。

◆経験年数別



- 大工全体では、「将来の保障ができないため」が43.1%で最も割合が高く、次いで、「人材が少ないため」が22.1%「費用がかかるため」が20.0%。
- 経験年数「41~50年」、「51年以上」では、「年齢のため」の割合も高い。

◆雇用形態別



- 「将来の保障ができないため」の割合は、「元請として仕事」で52.4%で最も高く、次いで「その他契約」が48.1%。
- 「人材が少ないため」の割合は「工務店社員」が23.6%で最も高く、次いで「元請けとして仕事」が23.5%。
- 「費用がかかるため」の割合は「外注常用(坪請主体)」が34.7%で最も高く、次いで「その他契約」が26.7%。

大工・職人の実態に関するアンケート調査

平成29年度版

省エネルギー施工技術者講習会
受講大工24,482人の回答

木造住宅・建築物の施工の中核的な存在である大工の不足が危惧されています。大工は、特に若い世代の就業者が少ないため高齢化が進み、年々減少傾向にあります。

木造住宅の新築工事では、プレカットの普及により施工の合理化が進み、部材の墨付けや加工といった作業は大工の手から離れ、加工済みの部材の組立・取付が、今日の大工の主たる作業となりました。しかし、増改築やリフォームの現場では、大工が構造から造作・仕上げ、工事の進捗管理と工事を担う重要な役割を演じ、本来大工が備えるべき技術が不可欠となります。

木造建築を理解し、木材の扱いなど関連する専門的な職能を備えた担い手を育成しなければ、人材の空洞化は一層深刻になることは明らかです。木造建築の担い手のあり様や育成の枠組みについて、包括的に検討・提言することが求められています。

そのような背景があるなか、木造技能者としての大工・職人の実態を把握するためのアンケート調査を実施しました。

本資料は、平成24年度～29年度に実施した省エネルギー施工技術者講習会でのアンケート回収数49,293票の内、大工職24,482票について、その結果の概要をまとめたものです。

国土交通省補助事業

住宅省エネルギー技術講習会(・施工技術者講習会)・設計者講習会 HP▶<http://www.shoene.org>

省エネ基準への100%適合化に向け、大工・工務店の適正な断熱施工技術等の習得のため、施工技術者講習会および設計者講習会を開いています。

講習会は全国47都道府県で開催。受講対象者は地域の木造住宅生産を担う大工技能者や断熱施工技術者、設計者です。

受講料:1,000円(別途、修了証代必要)



全国木造住宅生産体制推進協議会

事務局・一般社団法人 木を活かす建築推進協議会
〒107-4002 東京都港区赤坂2-2-19 アドレシビル1F
TEL.03-3560-2882 FAX.03-3560-2878 HP:<http://www.kiwoikasu.or.jp>



全国木造住宅生産体制推進協議会